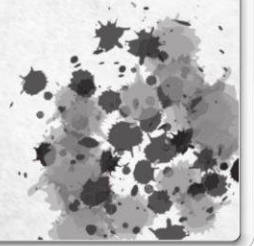




# 平塚雷鳥

～ 女性の道を切り開く ～



## 時代背景

彼女が生まれた 1900 年前後は、女性の政治集会参加が禁じられていた時代。当然選挙権も与えられておらず、女性の権利が不十分であった現状に反発し、結婚と職業を両立できるようにすべきだと訴えた。

現代においても、性的少数者や同性婚、夫婦別姓制度など、男女平等は政治面でも大きな議論テーマとなりつつある。女性差別からの解放を訴えた彼女の生涯から、男女平等の根源を学んでいく。

## 偉人の生涯

平塚らいてう(雷鳥) 1886～1971 日本の運動家、平和活動家



主 著 『円窓より』 『わたくしの歩いた道』 『現代と婦人の生活』

Keyword 「女性解放運動」、<sup>1</sup> 結成」、「青鞥」創刊

西 暦	年齢	生 涯
1886	0	東京で出生
1905	19	自己の存在に悩み禅修行へ ⇒「家」制度・良妻賢母 <sup>*1</sup> 教育に反発し、女性の権利獲得をめざすように
1908	22	家出
1911	25	青鞥社結成 ⇒ 『 <sup>2</sup> 』創刊
1918	32	[ <sup>3</sup> ]、山川菊枝らと母性保護論争
1920	34	[ <sup>4</sup> ]らと新婦人協会設立
1946	60	第 22 回衆議院議員選挙において、初の女性参加が認められる⇒女性 39 名が当選
1966	80	平和活動にも力を入れ、ベトナム戦争の反戦運動にも参加
1971	85	死去

### \*1 良妻賢母とは（りょうさいけんぼ）

意味は、「夫に対して良い妻、そして子に対しては賢い母であること」。“女性の任務は家を整え、子供を産み、その子供を育てることにある”という思想に基づいた婦人の理想像を表している。基本的に良い意味として使われるが、使われはじめた明治初期は「男尊女卑」の思想があり、もともとは男女差別を感じさせるネガティブな意味合いがあったと言える。



## 偉人の功績・思想

### ★女性解放運動

女性も一人の人間として自己を確立すべきとして、1911年に青鞥社を結成し、『青鞥』を発刊。「元始、女性は実に太陽であった」で始まる発刊の辞は、女性の奮起を促した。[5] ]の中、「青鞥」は女性解放運動家の拠点であり、新婦人協会の設立や女性参政権の確立を目指した。

### ★母性保護論争



#### 1918年 女権主義（与謝野晶子）

女性が男性にも国家にも頼らずに、経済的に独立できるようにすべきである。  
経済力がないなら結婚すべきでない。

#### 母性保護主義（平塚らいてう）

妊娠・出産・育児期の女性は国家が保護し、女性が結婚と職業を両立できるようにすべきである。

反論

#### 社会主義（山川菊栄）

資本主義では利益の追求が求められ、育児等で職場を離れる場合に十分なサポートができないことは致し方無い面もあった。つまり、与謝野と平塚の主張はどちらも徹底できないと考え、男女の機会均等と母としての生活を保護するには、社会主義を実現するしかないとした。



## 偉人から学ぶこと

### Think ☁️ 母性保護論争でどちらの主張を支持するか？

上に紹介した母性保護論争は、今日にも通じる論点である。法整備がされた現代においても、多くの女性が家庭と仕事の両立に悩んでおり、どうすれば解決に近づけるか議論を継続しなければならない。今回は、与謝野と平塚の考えを比較し、みんなの考えがどちらに近いかを考えてみよう。その上で、どのような政策をすることで男女平等を実現できるかを考えてみよう。  
※現代の日本は資本主義の国なので、今回は社会主義を推進する山川の主張は除外することにする。

あなたの考えは？ → 与謝野の考えに近い ・ 平塚の考えに近い

【その主張を基に、男女平等を実現できる案を出してみよう】

---



---



---

## プラスアルファ：ジェンダーの捉え方

男女差別に反対し、その撤廃を目指す思想や運動のことを[6] という。

性別には生物学的な性差 (Sex) と、文化的・社会的に作られた性差 (Gender) が存在するが、フェミニズムの考え方によると、「ジェンダーが性差別の根源であり、生物学的な違い以外の差はない」と主張されることが多い。確かに、「男は青、女はピンク」「男はカッコよく、女は可愛く」というような、生まれつき存在する差もあれば、成長すれば「男は仕事、女が家事」という役割にまで差を付けられる。このように女性が差別的扱いを受けることが多いため、積極的に差別を是正する措置が求められる。

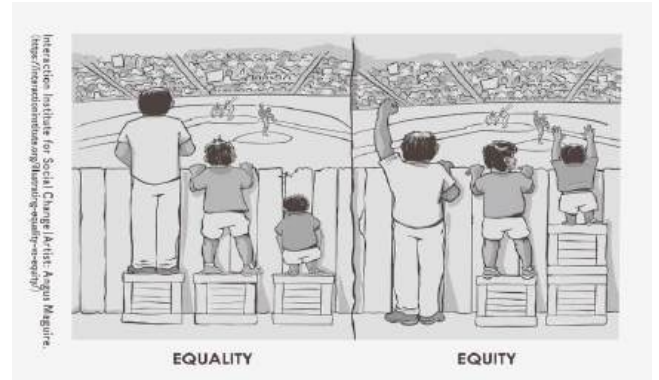
この積極的差別是正のことを[7] というが、男女平等を実現するために重要な措置である。

イラストを見て欲しい。左側は「同じ高さの段を設置」しており、平等な措置といえる。しかし、身長に差があるため視線の高さに差が出ている。結果としては不平等な状況になっている。一方で右側では、背が低い子には高めの段を準備し、結果として皆が同じ視線になっている。

これもひとつの平等な措置である。

男女平等においても、女性が軽視され過ぎている場合にはより強い対策を講じることが求められており、これを〔7〕という。

〔7〕は別名アファーマティブ・アクションともいわれる。



### Link 女性への配慮は区別？差別？



日本でのポジティブアクションは、「女性がない・少ない職種に女性を積極的に採用」「女性の意見を反映したセクハラ防止対策」「雑用・掃除など社内慣行の見直し」などが挙げられる。男女同権が進む北欧諸国では、政治家や企業の役員の一定割合を女性が占めるようにする制度を採用している国もある。これらは必要な措置とはいえ、行き過ぎると逆差別（男性差別）となる恐れもある。以下の事例で考えてみよう。

**Case 1 政治家の一定数を強制的に女性で占める法案** ⇒ 賛成 ・ 反対

【なぜそう考えたか】

**Case 2 東大の入学生に女性枠を設定する案** ⇒ 賛成 ・ 反対

【なぜそう考えたか】

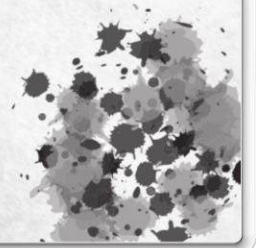
これをどう考えるかは正解はない。しかし、女性が男性よりも厳しい立場に置かれている現状は紛れもない事実であり、改善する余地の大きな問題といえる。今の日本で本当の男女平等を実現するには、「女性優遇」と言われるような、一見強引にも見える措置を講じる位が、ちょうどいいのかもしれない。





# 平塚雷鳥

## ～女性の道を切り開く～



## 時代背景

彼女が生まれた1900年前後は、女性の政治集会参加が禁じられていた時代。当然選挙権も与えられておらず、女性の権利が不十分であった現状に反発し、結婚と職業を両立できるようにすべきだと訴えた。現代においても、性的少数者や同性婚、夫婦別姓制度など、男女平等は政治面でも大きな議論テーマとなりつつある。女性差別からの解放を訴えた彼女の生涯から、男女平等の根源を学んでいく。

## 偉人の生涯

平塚らいてう(雷鳥) 1886～1971 日本の運動家、平和活動家



主 著 『円窓より』 『わたくしの歩いた道』 『現代と婦人の生活』

Keyword 「女性解放運動」、「<sup>1</sup> 青鞥社 結成」、「青鞥」創刊

西 暦	年齢	生 涯
1886	0	東京で出生
1905	19	自己の存在に悩み禅修行へ ⇒「家」制度・良妻賢母 <sup>*1</sup> 教育に反発し、女性の権利獲得をめざすように
1908	22	家出
1911	25	青鞥社結成 ⇒ 『 <sup>2</sup> 青鞥 』創刊
1918	32	[ <sup>3</sup> 与謝野晶子 ]、山川菊枝らと母性保護論争
1920	34	[ <sup>4</sup> 市川房枝 ]らと新婦人協会設立
1946	60	第22回衆議院議員選挙において、初の女性参加が認められる⇒女性39名が当選
1966	80	平和活動にも力を入れ、ベトナム戦争の反戦運動にも参加
1971	85	死去

### \*1 良妻賢母とは(りょうさいけんぼ)

意味は、「夫に対して良い妻、そして子に対しては賢い母であること」。“女性の任務は家を整え、子供を産み、その子供を育てることにある”という思想に基づいた婦人の理想像を表している。基本的に良い意味として使われるが、使われはじめた明治初期は「男尊女卑」の思想があり、もともとは男女差別を感じさせるネガティブな意味合いがあったと言える。



## 偉人の功績・思想

### ★女性解放運動

女性も一人の人間として自己を確立すべきとして、1911年に青鞥社を結成し、『青鞥』を発刊。

「元始、女性は実に太陽であった」で始まる発刊の辞は、女性の奮起を促した。[<sup>5</sup> **大正デモクラシー**] 中、「青鞥」は女性解放運動家の拠点であり、新婦人協会の設立や女性参政権の確立を目指した。

### ★母性保護論争



#### 1918年 女権主義（与謝野晶子）

女性が男性にも国家にも頼らずに、経済的に独立できるようにすべきである。  
経済力がないなら結婚すべきでない。

#### 母性保護主義（平塚らいてう）

妊娠・出産・育児期の女性は国家が保護し、女性が結婚と職業を両立できるようにすべきである。

反論

#### 社会主義（山川菊栄）

資本主義では利益の追求が求められ、育児等で職場を離れる場合に十分なサポートができないことは致し方無い面もあった。つまり、与謝野と平塚の主張はどちらも徹底できないと考え、男女の機会均等と母としての生活を保護するには、社会主義を実現するしかないとした。



## 偉人から学ぶこと

### Think ☁️ 母性保護論争でどちらの主張を支持するか？

上に紹介した母性保護論争は、今日にも通じる論点である。法整備がされた現代においても、多くの女性が家庭と仕事の両立に悩んでおり、どうすれば解決に近づけるか議論を継続しなければならない。今回は、与謝野と平塚の考えを比較し、みんなの考えがどちらに近いかを考えてみよう。その上で、どのような政策をすることで男女平等を実現できるかを考えてみよう。

※現代の日本は資本主義の国なので、今回は社会主義を推進する山川の主張は除外することにする。

あなたの考えは？ → 与謝野の考えに近い ・ 平塚の考えに近い

【その主張を基に、男女平等を実現できる案を出してみよう】

-----  
-----  
-----

## プラスアルファ：ジェンダーの捉え方

男女差別に反対し、その撤廃を目指す思想や運動のことを〔<sup>6</sup> **フェミニズム**〕という。

性別には生物学的な性差 (Sex) と、文化的・社会的に作られた性差 (Gender) が存在するが、フェミニズムの考え方によると、「ジェンダーが性差別の根源であり、生物学的な違い以外の差はない」と主張されることが多い。確かに、「男は青、女はピンク」「男はカッコよく、女は可愛く」というような、生まれつき存在する差もあれば、成長すれば「男は仕事、女が家事」という役割にまで差を付けられる。このように女性が差別的扱いを受けることが多いため、積極的に差別を是正する措置が求められる。

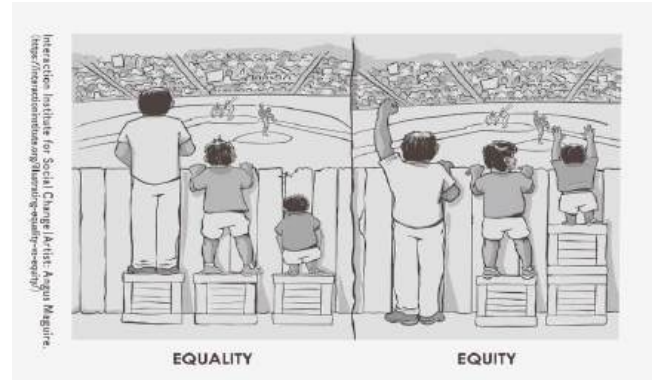
この積極的差別是正のことを〔<sup>7</sup> **ポジティブ・アクション**〕というが、男女平等を実現するために重要な措置である。

イラストを見て欲しい。左側は「同じ高さの段を設置」しており、平等な措置といえる。しかし、身長に差があるため視線の高さに差が出ている。結果としては不平等な状況になっている。一方で右側では、背が低い子には高めの段を準備し、結果として皆が同じ視線になっている。

これもひとつの平等な措置である。

男女平等においても、女性が軽視され過ぎている場合にはより強い対策を講じることが求められており、これを〔7〕という。

〔7〕は別名**アファーマティブ・アクション**ともいわれる。



### Link 女性への配慮は区別？差別？



日本でのポジティブアクションは、「女性がいない・少ない職種に女性を積極的に採用」「女性の意見を反映したセクハラ防止対策」「雑用・掃除など社内慣行の見直し」などが挙げられる。男女同権が進む北欧諸国では、政治家や企業の役員の一定割合を女性が占めるようにする制度を採用している国もある。これらは必要な措置とはいえ、行き過ぎると逆差別（男性差別）となる恐れもある。以下の事例で考えてみよう。

#### Case 1 政治家の一定数を強制的に女性で占める法案 ⇒ 賛成 ・ 反対

【なぜそう考えたか】 **このような措置を「クォーター制」といい、北欧諸国やイギリス、フランスといった先進国、近辺だと韓国も採用している。逆差別との批判もある。**

#### Case 2 東大の入学生に女性枠を設定する案 ⇒ 賛成 ・ 反対

【なぜそう考えたか】

これをどう考えるかは正解はない。しかし、女性が男性よりも厳しい立場に置かれている現状は紛れもない事実であり、改善する余地の大きな問題といえる。今の日本で本当の男女平等を実現するには、「女性優遇」と言われるような、一見強引にも見える措置を講じる位が、ちょうどいいのかもしれない。

